

おおさかどうし むじつ
大坂同志は無実だ！

きつじんざい だんがい
「殺人罪」デッチあげ弾劾

かくめいてききょうさんしゅぎ しやどうめい
革命的共産主義者同盟

がつなぬか にってい けいしちょう がつ にち おおさかふけい ひろしましない ふとうたいほ
6月7日、日帝・警視庁は5月18日に大阪府警が広島市内で不当逮捕した2
どうし いちどうし ねん さつじん ようぎ しめいてはい おおさかまさ
同志のうちの一同志を、46年にわたって「殺人」容疑で指名手配していた大坂正
あきどうし ふとう さいたいほ おおさかふけい ひとり どうし はん
明同志であるとして不当にも再逮捕した。また大阪府警はもう一人の同志を「犯
にんぞうとく さいたいほ どうし かんぜんもくひ ひてんこう たたか かくきょうどう
人蔵匿」で再逮捕した。2同志は完全黙秘・非転向で闘っている。革共同
ちゅうかくは まんしん いか どうし さいたいほ てつていてんがい ほんし
(中核派)は満身の怒りをもって2同志の再逮捕を徹底弾劾する。すでに本紙
2848号(6月1日付)で声明を発表したが、重ねて言明する。大坂同志は百
パーセント無実である。事件には一切かかわっておらず、「殺人」容疑は完全な
かくきょうどう どうし そくじしゃくほう きそこうげきふんさい ぜんりょく
デッチあげである。革共同は2同志の即時釈放、起訴攻撃粉碎のために全力
たたか みな たたか うつた
で闘う。すべての皆さんとともに闘うことを訴えます。

ほしのさいしんどうそう おおさかむじつ しょうめい
星野再審闘争が大坂無実を証明

おおさかどうし ねん がつじゅうよつ か おきなわへんかんきょううてい ひじゅんそし しぶやぼうどうとうそう
大坂同志は1971年11月14日の沖縄返還協定批准阻止・渋谷暴動闘争
きどうたいいん しほう こうじつ ねん がつ にち ほしのふみあきどうし
での「機動隊員の死亡」を口実に、1972年2月21日に星野文昭同志とともに
ぜんこくしめいてはい ほしのどうし ねん がつ たいほ むじつ む
に全国指名手配された。星野同志は75年8月に逮捕され、無実でありながら無
きちようえきはんけつ う げんざいとくしまけい むしょ むじつ うつた さいしん ようきゅう たたか
期懲役判決を受け、現在徳島刑務所で無実を訴え、再審を要求して闘っている
る。

ほしのさいしんどうそう なか ほしのどうし むじつ てつていてき あき おおさかどうし し
星野再審闘争の中で星野同志の無実は徹底的に明らかにされた。大坂同志の指
めいてはい こんきょ ほしのどうし おな ほしのどうし むじつ しょうめい おおさか
名手配の根拠は星野同志と同じである。それゆえ星野同志の無実の証明は大坂

どうし むじつ どうじ しめ
同志の無実をも同時に示すものである。

ほしのどうし じっこうこうい そうてい しょうこ たいほ がくせい きょうじゅつ
星野同志の「実行行為」を想定した証拠は、逮捕された学生たちの「供述」
ちょうしょ ぶっしょ だいさんしや しょうげん けいさつ けんさつ がくせい
調書」だけである。物証や第三者の証言などまったくない。警察・検察は学生
はんすう しょうねん みっしつ ちょうじかん ごうもんてき と しら きょうじゅつ きょうせい
たち(半数が少年)を密室で長時間、拷問的に取り調べ、うその「供述」を強制
と しら かてい けんじ しょうねん りょうしん とりしらべしつ よい ちちおや
した。取り調べの過程では検事が少年の両親を取調室に呼び入れて、父親に
しょうねん なぐ しんりてき お こ おこな がくせい
少年を殴らせ心理的に追い込むことまで行った。このようにして 6 学生のうそ
きょうじゅつちょうしょ にん にん さいばん かてい
の「供述調書」をデッチあげたのである。6人のうち5人は裁判の過程で
きょうじゅつ きょうせい じぶん きおく ちが しょうげん
「供述は強制されたもの。自分の記憶とは違う」と証言した。

ほしのさいしんどうそう かてい むじつ いっそうあき こくさいろうどううんどう
星野再審闘争の過程で無実はさらに一層明らかとなった。『国際労働運動』21
かんほしのとくしゅう ほしのどうし むじつ あま しょうめい
巻星野特集が星野同志の無実を余すところなく証明している。

けんさつ げんば もくげきしや にん きょうじゅつちょうしょ しょうこ かいじ きよひ
検察は現場目撃者 11 人の供述調書の証拠開示をかたくなに拒否している。
かいじ ほしのどうし むじつ あき けんさつ しょう
開示すれば星野同志の無実がたちどころに明らかになるからだ。この検察の証
こかいじきよひ ほしのどうし おおさかどうし むじつ ようぎ
拠開示拒否こそ、星野同志・大坂同志が無実であり、容疑はデッチあげであるこ
とを決定的に示している。

がつ にち とうきょう おこな きしゃかいけん べんごだん ふたり どうし むじつ せんめい
5月 31 日に東京で行った記者会見でも、弁護団から 2 人の同志の無実が鮮明
あつ きしゃ こくさいろうどううんどう かんほしのとくしゅう ふか かんしん しめ
にされた。集まつた記者は『国際労働運動』21巻星野特集に深い関心を示した。
しつぎ おうとう きしゃ かけきは だれ こうあんけいさつ さいばんしょ たいしつ
質疑応答では記者からも「過激派なら誰でもよいという公安警察や裁判所の体质
おも こえ あ
があると思う」との声が上がった。

ねんしぶ やぼうどう せいぎ つらぬ たたか
71年渋谷暴動は正義貫いた闘い

けんりょく おおさかどうし ほしのどうし むじつ ひやく しょうち おこな おおさかどうし
権力は大坂同志、星野同志の無実を百も承知でデッチあげを行い、大坂同志
ねん しめいてはい ほしのどうし ねんかんとうごく いま さいたいほ
を 46 年にわたって指名手配し、星野同志を 42 年間投獄してきた。そして今、再逮捕

き
を機にマスコミを動員してデマ・キャンペーンを展開している。まったく許しが
たい權力犯罪である。腹の底からの怒りを抑えることができない。

おおさかどうし ほしのどうし たい だんあつ おきなわへんかんきょうてい ひじゅん はんたい
大坂同志と星野同志に対するデッチあげ弾圧は、沖縄返還協定の批准に反対
たたか ねん しぶやぼうどうとうそう にってい ぼうりょくできかいきゅう しほい けっていてき き
して闘われた71年11・14渋谷暴動闘争が日帝の暴力的階級支配を決定的な危
き こ たい し はいかいきゅう ほうふく おきなわへんかん せいさく
機にたたき込んだことに対する支配階級の報復である。「沖縄返還」政策は、
おきなわけんみん ほんどふつき きちてつきよ ねが さかて と べいぐん きち こていか
沖縄県民の「本土復帰・基地撤去」の願いを逆手に取って、米軍基地の固定化、
えいきゅう きちか ねら にちべいこうしよう ゆうじ かくも こ みつやく
永久基地化を狙うものであった。日米交渉では「有事の核持ち込み」の密約ま
か しぶやぼうどうとうそう おきなわ たたか
で交わされていた。渋谷暴動闘争では、沖縄の闘いになんとしてもこたえよう
すうまんにん せいねんろうどうしゃ がくせい けんりょく しゅううかいきんし けいさつ けいぼうらんだ
と、数万人の青年労働者・学生が權力によるデモ・集会禁止、警察の警棒乱打、
じゅうすいへい さつじんてきぼうきよ ま こう たいけつ いのち じんせい
ガス銃水平撃ちなど殺人的暴挙と真っ向から対決し、命をかけ、人生をかけて、
へんかんきょうてい ひじゅんそし たあ
返還協定批准阻止に立ち上がったのだ。

たたか せいぎ ごれきし たたか あき げんざい あべ せいけん
その闘いの正義は、その後の歴史と闘いが明らかにしている。現在、安倍政権
おきなわ ちようせんしんりやくせんそう しゆつけき きち きょうか へのこしんき ちけんせつ きょうこう
は沖縄を朝鮮侵略戦争の出撃基地として強化し、辺野古新基地建設を強行
たい きち しま ひせいき しま げんじつ こんてい くつがえ たたか
している。これに対して「基地の島・非正規の島」の現実を根底から覆す闘
ちからづよ ぜんしん ねんしぶやぼうどうとうそう せいぎ ほんど おきなわ せいねんろうどうしゃ
いが力強く前進している。71年渋谷暴動闘争の正義は、本土・沖縄の青年労働者
がくせい たたか みやくみやく ひつ おおさかどうし ほしのどうし
・学生の闘いに脈々と引き継がれている。のみならず大坂同志、星野同志と
けつき かずおお はんせんはろうどうしゃ どうろう ちば どうろう みと こんにち
ともに決起した数多くの反戦派労働者が動労千葉、動労水戸をはじめとする今日
かいきゅうてきろうどううんどう げんりゅう だ ぜんしん
の階級的労働運動の源流をつくり出し、前進しているのである。

きょうぼうざい だんあつ ふんさい あべたお
共謀罪と弾圧を粉碎し安倍倒せ

こんかい だんあつ かん こつかいまえ きょうぼうざいふんさい たあ ひと ろう
今回の弾圧に関して、国会前で共謀罪粉碎に立ち上がった人ひとと、そして労
どううんどう げんば ちゅうかくは こえ し じ よ おお
働運動の現場から「中核派がんばれ！」の声、支持がたくさん寄せられている。多

ひと
くの人びとが権力のデッチあげと暴力に憤慨している。共謀罪法案と不当逮捕
たい
に対する怒りはひとつになり、安倍政権打倒へ向かっている。森友学園に続く加
けがくえんぎごく
計学園疑獄で、安倍と一部の資本家がいかに権力をを利用して公的資産を私物化
とみ
し富をため込んできたかが暴かれた。「安倍を逮捕し監獄にぶち込め！」が圧倒的
ろうどうしゃじんみん
な労働者人民の声である。

かくきょうどう
革共同は、弾圧粉碎、共謀罪阻止、安倍打倒へ総決起する。都議選に勝利
こくてつけっせん
し、国鉄決戦と階級的労働運動の巨大な前進をもってプロレタリア革命に必ず
しょうり
勝利する。今こそ星野同志と大坂同志の解放を！ 権力犯罪と闘うことが戦争
そし
を阻止する。ともに闘おう。